

下野市立石橋北小学校

1 学校課題

主体的に学び、高め合う児童の育成
 ～「わかる」「できる」が実感できる授業をめざして～



2 研究計画

(1) 主題設定の理由

学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、児童に生きる力を育むことが求められている。本校の児童は、各種教育調査の結果によると、「友達の前での考えや意見の発表」や「学習に自分から進んで取り組む」ことに課題がある。また、各教科とも基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着に課題があることが分かった。そこで、児童が学ぶことに興味や関心をもつとともに、見通しをもち粘り強く取り組み、「わかる楽しさ」「できる喜び」が実感できるよう授業改善を図っていく。その際に、GIGAスクール構想の進展により整備されたタブレット端末などのICT機器を有効に活用していく。その結果、児童が成就感や達成感を得て自信を深め、さらに学習意欲が高まることで、主体的に学びに向かい、互いに高め合う児童を育成することができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

(2) めざす児童の姿

- ①課題を自分のものとして捉え、解決に向けて取り組み、深く学ぶことを楽しむ子ども
- ②互いのよさを認め合い、高め合う子ども
- ③授業で「分かった」「できた」と実感できる子ども



3 研究内容

(1) 研究の方針、内容および具体策

「わかる楽しさ」「できる喜び」を実感できる授業の工夫

方針	内容	具体策
(1) 学習意欲を高め主体的に学びに向かうことができる授業の工夫	①自ら目的意識や課題意識(疑問・問い)をもつことができる導入・「めあて」の提示の工夫	ア 自作教材、具体物の活用の工夫など イ ICT 機器を活用した導入の工夫(タブレット端末、デジタル教科書等) ウ 児童の情意に働きかける課題の提示の工夫(意外性、疑問、好奇心など)と発問の工夫
	②「振り返り」活動の確実な実施と内容の充実	ア 「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業展開への位置付けと提示方法の工夫と確実な実践 イ 授業計画シートや板書計画ノートの作成
(2) 学習集団での、互いの有効な関わり合いを生み出す工夫	①安心して学び合える集団づくり	ア Q-Uや学級力アンケートの実施・結果分析による学習集団づくり(年2回、教育相談、学級活動等) イ 互いのよさを生かし、互いを認め合う学級経営
	②個のよさを生かす学習形態や学習活動	ア 学習形態の工夫による学び合いと時間の確保 イ タブレット端末による個人の考えの表現
(3) 達成感や喜びのある授業の工夫	①達成感や成就感を得られる教材や ICT 機器の活用	ア 教材の収集、開発、作成、管理、活用など イ 一人一台ずつのタブレット端末活用などによる個人の考えの表現の工夫(エアドロップの活用等) ウ 課題解決のために活用する ICT 機器の使い方スキルアップの支援
	②学年相応の家庭学習の充実	ア 家庭学習の実態調査と分析 イ 家庭学習のガイドラインやモデルの提示(「家庭学習のすすめ」および家庭への啓発と協力依頼) ウ 授業との関連を図った家庭学習の工夫および自律的・計画的な学習方法の支援

(2) 研究授業を通した主題への取組

① 1年生算数 (S & U コラボ事業 指導者：宇都宮大学教育学研究科教授・市教委指導主事)

○単元名 「のこりはいくつ ちがいはいくつ」

○研究主題に迫るために

自分の考えを相手に伝えることに対し苦手意識をもつ児童が多くいるため、自分の考えを何らかの方法で表現できたことの喜びを味わわせたいと考えた。その手立ての1つとして、何度も繰り返し行っているブロック操作で、どの子も説明できるようにした。また、操作を行ったことが生かせるワークシートを使用し、立式に役立てた。さらに、ペアで話し合う活動を取り入れたり、「おたすけカード」を活用したりしながら、自力解決が困難な児童の指導にあたった。

○研究協議

- ・本時のめあて「ちがい」をどう着目させられるかが大切であり、「ちがい」を求めることは、1年生にとっては難関かもしれないが、思考力が深まる良い機会になる。
- ・児童はよく考え、様々な方法で表現する。教師の気付きが重要であり、そのためには、色使いや書く順序をよく観察すると良い。また、子どもなりの表現を学ぶ必要がある。

② 4年生算数 (S & U コラボ事業 指導者：宇都宮大学教育学研究科教授)

○単元名 「変わり方調べ」

○研究主題に迫るために

関係ある数量を見いだしたり、見いだした二つの数量の関係の特徴をどのように調べたりすればよいか分からない児童がいることが予想されたため、まずは、伴って変わる二つの数量を児童が自ら見いだすことができるよう、課題の提示方法を工夫した。そして、二つの数量の関係の特徴を調べるための表の見方を丁寧に押さえ、次の学習に生かしていくことで、主体的な学びとなるようにした。また、表の見方によっては、様々な変化や対応が見付けられることもあり、どのような変化や対応を使って式を考えたらよいかを話し合わせることで、よりよい求め方を考えられるようにした。

○研究協議

- ・関数的な考え方の初めての学びにあたる単元であり、表からきまりを見付ける際に、思考しながらそれぞれが自己調整力を発揮することが重要である。関数の学習において、『変数』はとても大切で、自分で問題解決を行えるように育てていく必要がある。
- ・粘り強く思考している時間が大切であり、うまくいなくても担任が価値付けすることが重要である。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① ICT 機器（主にタブレット端末）の使い方のスキルアップ支援に取り組んだことで、個人の考えを表現しやすくなり、学習意欲が高まり、主体的な学びに繋がった。
- ② 「わかる楽しさ」「できる喜び」が実感できるような授業改善を図るための手立てとして、授業中の「めあて」「まとめ」を児童の言葉を使いながら書くことに取り組んだ。その結果、「何を学ぶ」のか「何が分かったのか」など、自分ごととして学習に取り組む児童が増えた。児童が成就感や達成感を得て自信を深めたことで、「振り返り」の内容が充実し、これまで以上に主体的に学びに向かう態度を育むことができた。

(2) 研究の課題

- ① 家庭学習の取り組み方においては、個人差が見られる。基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着のためには、家庭との連携が不可欠である。学年相応の家庭学習の充実のために、家庭学習のガイドライン（「家庭学習のすすめ」）の更なる家庭への啓発と協力依頼に取り組みたい。
- ② 学習場面において ICT 機器（主にタブレット端末）の活用が有効であるか、使用が目的ではなく一手段となっているかなどを検討し、既存の年間指導計画の修正を図っていきたい。また、日々進化している ICT 機器の使い方についての研修を実施し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、授業改善を進めていきたい。